

重点施策における審議会評価・意見(案)

当古賀市男女共同参画審議会は、第1次古賀市男女共同参画後期実施計画の「基本目標と施策の体系」中の具体施策59項目すべてを点検、評価し、総合評価、評価意見等を基礎資料として、平成23年度に第2次古賀市男女共同参画計画の原案作成を行なった。

平成25年度は、点検・評価の対象となる事業の実施年度が平成24年度であり、第2次古賀市男女共同参画計画の最初の実施年度であることから、審議会委員の意見に基づき点検、評価すべき重点施策17項目を選定し、これまでと同様に点検、評価を実施した。

また、昨年度に引き続き、今年度も、点検、評価を行う事業の担当課の出席を得て、直接質疑応答を実施できたことから、担当課の意図をより理解することができ、点検・評価の深化に繋げることができた。

	重点施策	審議会評価・意見
基本 目標 II	① 家庭における共同参画・共同責任意識の促進	<p>○「一行詩」については、今年度は1,136名2,143作品と過去最高の応募があった。老若男女、すべての人が誰でも参加できる素晴らしいツール取組であり、年度で盛衰はあるものの全体的には上向きで、発展的に推移しているため、是非継続していただきたいし、大いに評価したい。ただ、「何年から始まった」取組の開始年度や、応募数の推移についてもある程度がわかるように標表記して頂きたい。</p> <p>また、今後、広報活動の充実とともに、これまでの個人表彰に加えて、協力していただいた学校や企業に対する表彰についても、例えば5年ごとに表彰する等、今後、取組の拡大実施に向けて、検討願いたい。</p>
	② 男女が共に参画する育児・介護のための講座及び相談事業の実施	<p>○「父と子のつどいの広場」については、継続した取組がなされており、父親の子育てを支援する意味で評価したい。担当課との質疑のなかで、「父と子のつどいの広場」は年に6回開催され、参加者は合計228人ではあると報告された。ただし、「父と子のつどい」としながらも、保護者111名中父親が43名であり、母親が67名とまだまだ母親の参加が多いのが現状である。今後は、その現状を踏まえ、内容、事業名ともに衣替えを図り、「子育てのスキルアップの具体的な手法を取り入れた」新たな事業である「イクメン道場」と名称を変更して平成25年度から実施されており、父親の子育てへの更なる支援に大いに期待したい。</p> <p>○小学5・6年生向けの認知症ジュニアサポーター養成講座を開催し、小さい頃から認知症について正しく知ってもらい理解し、学ぶことから、人権意識や、助け合いの精神を向上させることはとても大きな成果であり、大いに評価したい。ただし、認知サポーター養成講座については、25回開催し、997名の参加者のうち、男性390名とあるが、これは、上記の小学生を含んでおり、報告書への記載が不十分であり、成果として実態が見えないのが残念である。今後は他の事業と同様に、読む側に立った報告書を見てわかるような記載をお願いしたい。また、介護教室5回、89名の参加者中男性1人、介護予防講座12回、250人の参加者中男性は44人と少ないのが実状である。</p> <p>○24年度の母子手帳交付者549人であり、うち、年2回の「すこやか教室」参加者219人(39.9%)、内訳は初産婦117人、経産婦102人であることがわかった。また、父親の参加は初産婦のパートナーが28人と多く、経産婦のパートナーは3人と少ない。以上のことが担当課との質疑応答の中でわかった。今後は、参加者数等は前年度との比較とともに、審議会の資料に事前に記述して頂き、成果や課題が把握できるようにして頂きたい。父子手帳交付については、時期に応じた父親としての役割等や配慮について具体的な絵も含めて記載されており、とても良い取組みで、大いに評価したい。ただ、他の事業も同様であるが、状況を聞くとき参加人数等答えられており、できれば前年度との比較や実施状況が分かるように事前に記載願いたい。また、「すこやか教室」参加者や父子手帳に関するアンケートを取っていただき、「こういう事を知れて良かった」等参加者の意見を聞き参考にして、次へのステップアップをお願いしたい。</p>